



地下鉄駅から「Jポップ」発信

日本のポピュラー音楽「Jポップ」を欧州でヒットさせようと、英実力派プロデューサーとロンドンの地下鉄駅で活動する日本人女性バスカー（流しの歌手）、ハレルヤ洋子さんが組んで英国発Jポップをリリースした。マンガやアニメ、コスプレは欧州でも大人気。英マン島出身の女子中学生ベッキー・クルーエルさん（15）がアニメソングに合わせて踊る動画を投稿したところ、ユーチューブでヒットして日本でアイドルになった。英国発Jポップの流行なるか。

「バスカー」に挑戦

♪ほら地球ってこんなにおもしろい星 大人になるまででなくてもう待てないよ（作詞・矢野修氏）

洋子さんの鍛え抜かれた歌声が軽快なJポップのリズムに乗って響く。「レコーディングの話聞いたとき、ものすごくうれしかった。こちらの人は日本人よりも日本の曲が何なのかわかってる。歌謡曲という自分の原点を思いだして歌った」

日本でプロ歌手を目指していた洋子さんは2005年、あこがれのビートルズを生んだ英リパールを訪れ、目抜き通りで演奏する音楽家に出会った。路上で音楽や手品を演じてチップを稼ぐ大道芸人は「バスカー」と呼ばれる。洋子さんはバスカーに挑戦してみようと06年、英国に渡ってきた。

雨露と寒さをしのげる地下鉄駅はバスカーにとって最高のステージだ。しかし、バスカー同士の縄張り争いが絶えず、ロンドンの地下鉄駅での音楽活動は03年から許可制になった。洋子さんは申請から10カ月後、閉鎖駅でのオーディションに合

格し、07年11月、ようやくバスカーの許可証を手にした。

1日最長15時間も

スタジオで2～5時間練習して、地下鉄駅で4～6時間歌う毎日。洋子さんの休日はクリスマスの1日だけだ。ライブやレコーディングが入ると1日最長15時間歌い続けたこともある。

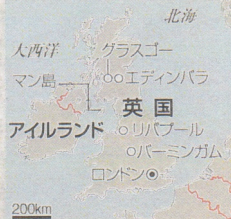
最初は地下鉄駅でビートルズのヒット曲を英語で歌っていた洋子さんは特徴を出すため「スキヤキ」や「卒業写真」「赤いスイートピー」など日本の歌謡曲を日本語で歌い始めた。

「英語で歌え」とヤジられることもあったが、「CDはないの?」「日本の歌にハマってきた」と英国の若者たちから声をかけられるようになった。英映画にバスカー役で出演したり、無料紙「メトロ」に写真付きで紹介されるなど、ロンドンでの知名度も上がってきた。

英作曲家も太鼓判

ロンドンに拠点を置く日本人デザイナー、コシノミチコさんから通りすがりに「あなた、私の若いころにそっくり」と激励されたこともある洋子さんは、今年に入ってチャリング・クロス駅で日本人ギタリスト、矢野修氏（34）から「今日はもう終わりですか」と話しかけられた。2年間、チップは置いていくものの無言で通り過ぎていく矢野氏と言葉を交わしたのはその時が初めてだった。この出会いをきっかけに2人は一緒に仕事をするようになった。

ちょうどそのころ、英BBC放送がベッキー・クルーエルさんのドキュメンタリー番組で流すJポップ音楽を探していた。矢野さんが音楽仲



ロンドンの地下鉄構内で日本の歌謡曲を歌うハレルヤ洋子さん。英国人のファンも増えた（木村正人撮影）



ベッキー・クルーエルさん。日本のアニメソングなどを歌い、人気者になった英国のマン島出身のネットアイドルだ（古厩正樹撮影）

間の英実力派プロデューサーに洋子さんのデモテープを送ったところすぐに気に入られ、BBC用の曲を含め計8曲を制作した。

Jポップに初挑戦した英作曲家アダム・スキナー氏（31）は「Jポップを調査した結果、若い女の子、ハッピー、ピンク、シャボン玉、花をイメージしながら作曲した。日本語はわからないが、ヨーコのルックス、歌声は英国で受け入れられると思うよ」という。4曲の日本語作詞を担当した矢野氏も「もっと頑張っ活躍してほしい」とエルを送っている。（ロンドン 木村正人）



ロンドンの中心部、オックスフォード・サーカスにスクランブル交差点がオープンした際も日本アニメのコスプレが登場した。「日本」は英国で大人気だ（木村正人撮影）